

# 阿蘇火山山頂における火山ガス中の CL/SO<sub>4</sub> 比の観測

## Monitoring CL/SO<sub>4</sub> ratio of volcanic gas at the summit of Mt. Aso

# 大野 正夫[1]; 田中 良和[2]; 森 俊哉[3]; 小田 信介[4]

# Masao Ohno[1]; Yoshikazu Tanaka[2]; Toshiya Mori[3]; Shinsuke Oda[4]

[1] 九大・比文・環境変動; [2] 京大・理・地球熱学研究施設; [3] 東大・院理・地殻化学; [4] 九大・比文  
[1] Dept. Earth Science, Kyushu Univ.; [2] Aso Volcanological Laboratory Kyoto Univ.; [3] Lab.Earthquake Chem., Univ.Tokyo; [4] social and cultural studies.,kyushu Univ

阿蘇火山山頂において、2002年11月より、アルカリトラップ法による火山ガスの観測を開始した。

阿蘇火山山頂火口南西側の退避壕の中に 1 mol/l の水酸化カリウム溶液のボトルを置き、これを2週間から2ヶ月程度の期間をおいて交換し、吸着されたイオンの濃度を測定した。分析はイオンクロマトグラフ法により、F, CL, SO<sub>4</sub> の濃度を測定した。

測定された CL/SO<sub>4</sub> モル比は、2003年10月から2004年4月の間はやや高い値(0.5)を示し、その前後では0.02から0.2の間のやや低い値を示した。この低い値は、1996年から2003年にかけて FTIR 法による繰り返し観測によって報告された値と調和的である。また高い値を示した 2003年10月から2004年4月の間は火山活動がやや活発化し、湯溜りの水位の低下が観測されており、関連性が示唆される。今後、電磁気観測のデータ等とも比較を行い、変動の機構を考察したい。